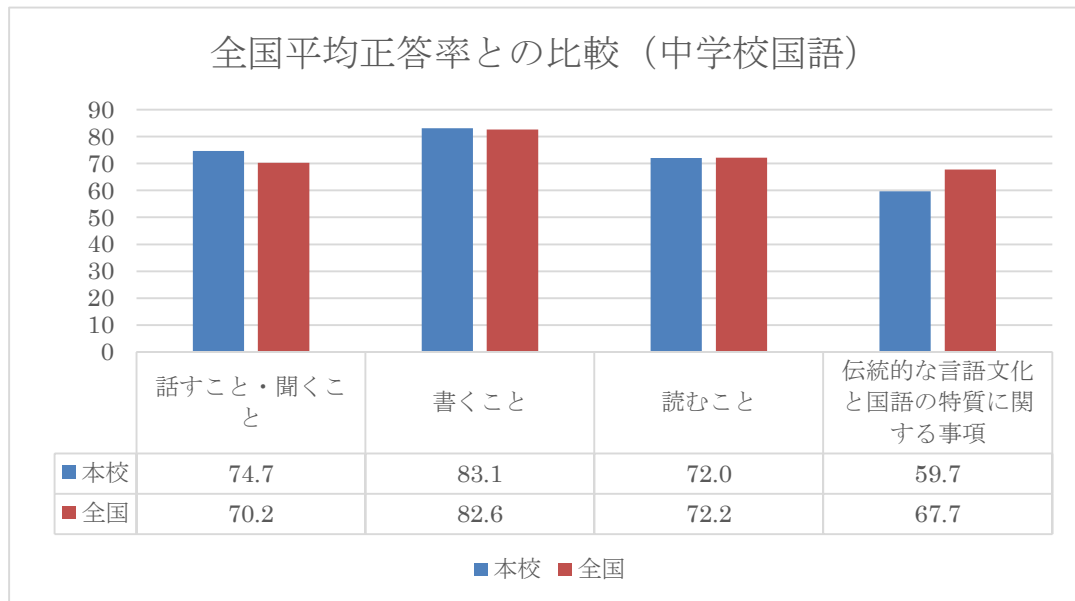


## ■ 調査結果及び考察 Ver. 1

### 1 国語

#### (1) 結果



4領域のうち2領域で全国平均正答率を上回った。無回答率をみると「相手にわかりやすく伝わる表現について理解する」趣旨の出題を除いて、全国平均よりも低い値となった。

#### (2) 成果と課題

今回の調査で、「封筒の書き方を理解して書く」と「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」、「書いた文書を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する」に課題が見られた。

国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域で、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」についての力をもって、「書くこと」を通じ「論理的で多様な表現」を行うする力が十分に定着していない点が課題と考えられる。

#### (3) 学力向上のための取り組み

##### 【学校では】

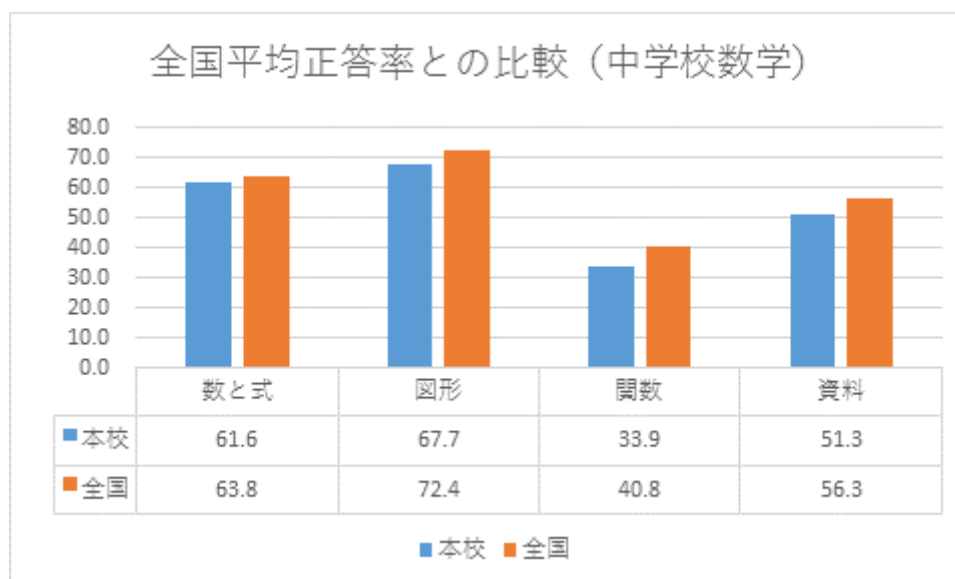
国語科の授業では、漢字の学習や文章に関する学習で身に付けた内容をもって、表現活動の一貫として、「書く」場面を単元の学習に取り入れる必要がある。あるいは、帯単元として言葉の表現と書く力を育む時間を計画的に設定し、年間を通して確実に語彙を定着させる必要がある。

##### 【ご家庭では】

- 読書のジャンルを広げてあげましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- お子さんといろいろな表現を使った会話を楽しみましょう。聞くときは最後まできちんと聞き、話すときは語尾まではっきりと話しましょう。共感したり、根拠を尋ねたり、お互いの考えを交流しましょう。
- 手紙を書く場面もつくっていきましょう。思いを伝える表現の練習にもなります。

## 2 数学

### (1) 結果



「数と計算」、「図形」、「量と測定」、「数量関係」のすべての領域で全国平均をやや下回った結果である。また、全問題の約半数以上の無回答率が全国平均よりも高い。特に、与えられた値や説明を基に、目的に応じた対応が求められる問題では、無回答率が全国平均を大きく上回った。

### (2) 成果と課題

「数の集合と四則計算の可能性」については、全国平均を大きく上回った。また、「事柄が成り立つ理由を説明することができる」力についても全国平均を上回った。一方、「反比例の表から、 $x$ と $y$ の関係を表すことができる」、「証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している」、「与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えることができる」力については、全国を大きく下回った。

数の概念や式で書かれた計算問題については達成率も高いが、説明を基に、与えられた図表から必要な情報を選びだし活用する力が十分でない傾向がみられました。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

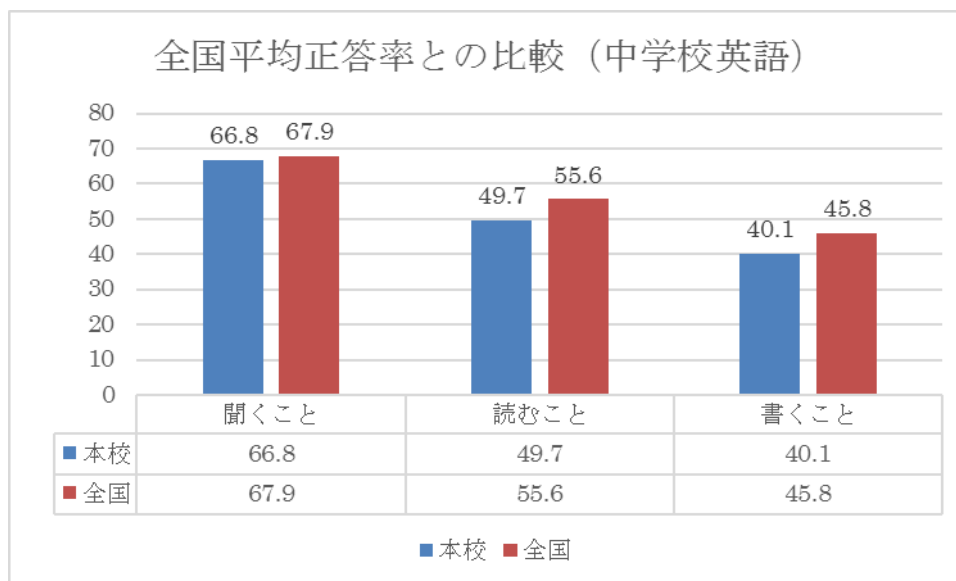
- 日常の学習から、説明の理解を基に与えられた数値を使った作業を進める過程を取り入れるとともに、定着が十分でない生徒に対して、改善を図る手立ての工夫を進めます。
- 自分だけが分かるのではなく、集団で思考し誰でも分かる説明ができるよう、集団で課題を解決していく活動を繰り返し取り入れ、説明の理解と解決する力を高めます。
- T T 少人数指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

#### 【ご家庭では】

- お子さんが興味をもっている記事や図書、情報等の内容について、時折たずねてみたり、興味を高め理解を深めたりするような共感や称賛、そらに、興味を広げる言葉をかけてみましょう。
- 数学好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。素晴らしい」という経験をさせるのが一番です。生活場面で数学に関する事柄を探して話題にしてみてください。身のまわりには美しい図形や曲線を使ったデザイン、数量関係、割合等があります。

### 3 英語

#### (1) 結果



- ・3つの領域で全国平均を下回っている。
- ・無回答率は、「一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる」が全国平均より高く、続いて、「一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書くことができる」と「与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる」が全国平均より高かった。

#### (2) 成果と課題

- ・「聞くこと」はおおむねできている。
- ・文章の基本となる動詞の時制と肯定文・否定文の基本と活用場面を、日常の授業から取り込んでいく必要がある。
- ・3人称単数現在時制の肯定文・否定文の誤りが目立った。
- ・「聞くこと」の力を生かすとともに、時制の概念を定着させ、繰り返し書く課題を日常の授業に取り入れる必要がある。

#### (3) 学力向上のための取り組み

##### 【学校では】

- 聞いて把握した内容について、適切に応じる指導をさらに充実させます。
- まとまりのある文章を読んで大切な部分を読み取る指導を充実させます。
- 動詞の時制の定着を図り、適切でまとまりのある文書を書く指導を充実させます。
- 生徒が関心のある事柄を取り上げ、話しやすくなるような工夫をします。
- 言語材料の定着を図るために、実際に言語をしようして互いの考えや気持ちを伝え合う活動を行います。

##### 【ご家庭では】

- 英語は、生徒の将来のコミュニケーション活動において、重要なものになると考えられます。日頃から英語に関する話題や表現、言葉に自然と興味をもてるように工夫してみましょう。
- 英語を使い、世界の文化や歴史、自然等を理解するきっかけになるよう話題を広げましょう。

#### 4 生活習慣や学習習慣に関する調査

##### (1) 結果

《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	90.4	93.1
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	87.1	78.0
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	96.8	92.8
家の人（兄弟姉妹を除く）と学校の出来事について話をしますか	75.8	76.4
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	56.4	70.3
学校のきまりを守っていますか。	100	96.2
人が困っているときは、進んで助けていますか。	87.1	85.9
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	96.7	95.1

起床・就寝については全国平均を上回り、「早寝・早起き」の生活リズムも概ねできているといえる。これに伴い、全校的に遅刻者は特別の事情を除いて殆ど見られない。

いじめゼロへの取組や助けあいが見られ、規範意識についても全国平均を上回っている。困難な課題への挑戦については改善への取組が必要と考えられる。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	50.0	50.4
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。	6.5	9.9
「3時間以上」		
「2時間以上、3時間より少ない」	30.6	25.6
「1時間以上、2時間より少ない」	29.0	34.3
「30分以上、1時間より少ない」	16.1	17.2
「30分より少ない」	12.9	8.4
「全くしない」	4.8	4.4

家庭学習については全国平均とほぼ同等であるが、まだ1時間未満の児童が3割程度おり、中には全く家庭学習をしていない生徒もいた。かなり個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意義を保護者や生徒に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきたい。

##### (2) 改善に向けての取り組み

###### 【学校では】

- 自学ノートを含め、基本的に毎日宿題を出します。自主学習（自学）については、学年が進行するとともに、習慣化から質の向上へと改善を求めています。優れた自学ノートについては担任等を通じて提示しています。
- 始業前の毎朝、各教室で読書の推奨、課題学習を進めています。ボランティアによる読み聞かせもあります。テスト前には放課後学習への参加も進めています。

###### 【ご家庭では】

- 「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉とした規則正しい生活と、家庭学習の習慣化に努めましょう。
- お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まると考えられます。
- テスト等に向け、自分で計画を立て実行し、そして、結果を基に改善できる力を育てていきましょう。